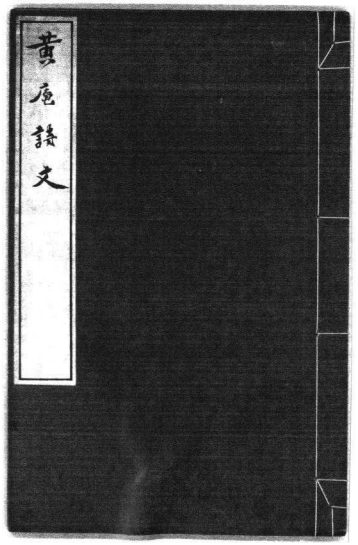
中川克一（なかがわかついち）　評論家、漢詩人。文久二年十一月二日淡路國生れ、大正二年一月十六日歿（一八六二―一九一三）。諱升、字允中。號牛門隱士、黄庵。少時鄕儒玉井竹堂に學び、のち九州で楠本碩水の門に入る。明治二十二年上京して塾を開き、十年間で受業者千人を數へたといふ。傍ら川田甕江に就き文章を學ぶ。その後得庵鳥尾小彌太を知り、その主宰誌『保守新論』に毎號のやうに執筆、大隈重信を攻擊した「秦檜論」は發禁となるも、卻つて文名を擧げた。また乃木將軍に心服すること深く、殉死に感動して「乘將軍歌」を作つた。

著書に『近偉人百話』（明治四十二年十一月三日至誠堂書店）、『山陽外史』（明治四十四年二月二十六日至誠堂書店）、『近讀偉人百話』（明治四十五年二月十二日至誠堂書店）、『黄庵詩文』（再版・昭和十四年一月十六日虎文齋）等。